

## [⑪資材調達のための諸環境の整備]

官庁営繕部設備課

### 電気、機械設備への汎用品の採用等

#### ○施策の概要、進捗状況、継続性

(概要) 電気及び機械設備工事における機器・材料の仕様を見直し、要求する品質・性能を満たす汎用品について工事への適用を図り、コスト縮減を推進している。

#### 具体的実施事項

##### 1) 新技術新工法の採用

- ①協約型2Pブレーカ
- ②Hf蛍光灯器具
- ③コンパクト形空気調和機  
コーナーボルト工法ダクト

##### 2) 施工の合理化、省力化

- ①亜鉛メッキ面の塗装の取り止め
- ②屋内排水管の合流化
- ③コンセント配線のケーブル化
- ④アウトレットボックスの共有化
- ⑤改修における既設設備の有効活用

#### ○施策の効果

(効果) 汎用品、もしくはより汎用品に近い機器・材料を工事へ適用することにより、製品コストの縮減を図ると共に、作業内容の一般化が図れることから、作業効率の向上による労務費の縮減を図ることが可能となる。さらには、監督員による確認業務の効率化による行政コストの縮減が図られている。

(縮減額) 各工事毎に製品コストの縮減額と労務費の縮減額が、既に設計VE等として計上されている。

#### ○イメージ図

次頁参照

汎用品・汎用工法の積極的活用を図るための基準類の見直し

1. 機器・機材の仕様を見直し、汎用品の活用を図る。
2. 施工方法を見直し、汎用工法の活用を図る。
3. 新技術・新工法の採用手続きの明確化

従来

縮減対策

Hf 蛍光灯を採用することにより、1 台当たりの明るさが約 1.5 倍になるため、照明器具台数を減らすことができる。

40W 蛍光灯

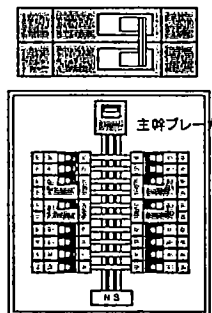


Hf 蛍光灯

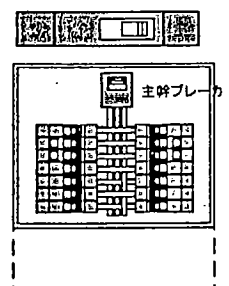


ハーフサイズブレーカの採用により、分電盤が小型化でき、盤の価格と施工費を抑えることができる。

従来形ブレーカ

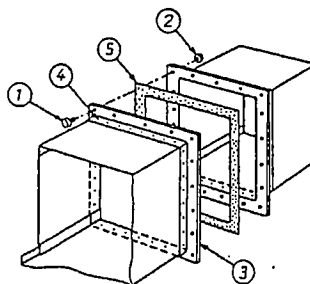


ハーフサイズブレーカ

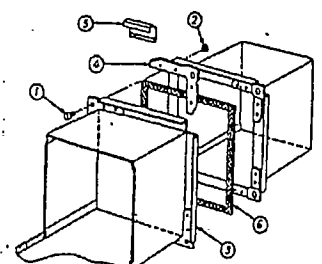


コーナーボルト工法の採用により、ダクト接続の際のボルトによる固定箇所を減らすことができ、現場施工の省力化が可能となる。

アングルフランジ工法

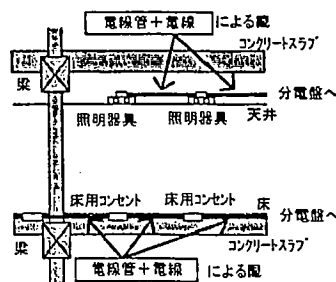


コーナーボルト工法



配線工事にケーブルを使用することにより、電線管への入線の必要がなくなり、現場施工の省力化が可能となる。

電線管+電線



ケーブル配線

